

令和7年度定例地域会議議事録

1. 開催日時：令和7年7月5日（土）13時30分～17時10分
2. 開催場所：近隣センターこもれび多目的ホール
3. 出席者：35名
【自治会・町会・町内会15自治会16名】
ひまわり会自治会、笹山町会、あびこ天王台ハイツ自治会、
天王台四丁目自治会、天王台西自治会東高野山自治会、
下ヶ戸自治会、我孫子天王台住宅自治会、東我孫子区自治会
大久保町会、大久保台自治会、小暮町内会、早稲田地区自治会、
藤和天王台ハイツ自治会、ヒルズ我孫子ガーデンア自治会
【我孫子市】市民安全課2名、協働推進課2名
【我孫子市教育委員会】1名
【久寺家6自治会協議会】3名
【天王台南地区地域会議推進委員会】11名
4. 会議次第
 - (1) コミュニティスクールの現状と地域の活動について
我孫子市教育委員会地域学校協働か集おう推進担当
 - (2) AED設置の補助金について
我孫子市市民協働推進課 課長補佐
 - (3) 災害に備える（地震対策）・安全な避難について
我孫子市市民安全課 係長
 - (4) 自治会合同防災体験訓練と講演会のご案内について（10月18日・19日）
東我孫子区自治会防災会 副会長
 - (5) 久寺家6自治会協議会設立の経緯と活動内容について
事務局
 - (6) グループ別意見交換
自助・共助・公助について意見交換と発表
5. 地域会議推進委員会 委員長あいさつ（要旨）

令和7年度定例地域会議を開催するに辺り、今年度は「防災」をテーマに進めてまいります。お手元の会議資料議題に沿い、我孫子市教育委員会からは「コミュニティスクールの現状と地域の活動について」、市民協働推進課からは「AED設置の補助金について」、市民安全課より「災害に備える（地震対策）安全な避難について」、また、今年、10月18日・19日の2日間の日程で開催されます、東我孫子区自治会防災会の協力を頂き、天王台南地区地域会議と共同で「自治会合同防災体験訓練」を開催するご案内をして頂きます。

休憩の後は、事例紹介として、「久寺家地区6自治会協議会」から3名の方に起こし頂き「久寺家地区6自治会協議会設立の経緯と活動内容について」講演をして頂きます。講演の終了後、各グループに分かれて、防災に関する意識向上を図る議論をして頂きます。

最近、南海トラフの巨大地震発生の確率が上がったとの報道があります。発生した場合は、甚大な被害が想定され、死者29万人に達するとの予測が出ています。対策を講じる事によって、8割の被害を減らせるとの研究結果が出ています。本日の会議・講演を通して、防災について意識向上に役立て頂きたいと思っております。

(1) コミュニティスクールの現状と地域の活動について

教育委員会地域学校協働活動推進担当・・・

説明内容（要約）

地域総ぐるみで地域の未来を担う子ども達を育てましょう。

我孫子市のすべての小中学校は「地域とともにある学校」目指した「コミュニティ・スクール」となっています。「コミュニティ・スクール」とは、学校関係者、地域住民地域の教育団体や施設の代表で構成する「学校運営協議会」を設置しています。

学校運営や学校の課題、学校を核とした地域創りについて協議しています。

子ども達の健やかな成長を促し、子ども達の豊かな学びや体験活動を実現するために必要に応じて地域の皆さんのお力を借りたいと考えています。

講演後の質疑：なし

(2) 自治会等自動体外式除細動器（AED）設置補助金について

市民協働推進課課長補佐・・・

説明内容（要約）

誰にでも使える救命の医療器具として、心配停止状態の方に電気ショックを与える事で心臓の動きを元に戻す機能があります。心配機能が停止し、救急隊が到着するまでの時間は、8分から12分とされています。何もしないと生存率は1分ごとに約10%減少されると言われています。

我孫子市では、自治会・マンション管理組合等に対して、AED設置補助金を出しています。設置条件は、ありますがAEDの購入については、上限25万円まで支出します。現在、天王台地区では、63台のAED設置されています。

ARD設置につきまして、この機会にご検討頂きます様お願い致します。

説明後の質疑：なし

(3) 災害に備える（地震対策）・安全な避難につて

市民安全課係長・・・

講演内容（要約）

東日本大地震や台風・ゲリラ豪雨の対応の経験を踏まえて、話を進めて行きます。

我孫子市では、様々な災害を想定していますが、地震と風水害について警戒しています。

本日は、地震の話から進めて行きますが、後半は、風水害について話をします。

昨年のお正月に、能登半島を震源とする地震が起こりました事から、地震の話を知りたいという要望が増えています。

今は、地震についての講演要望が増えています。震度7クラスの地震発生については、最近、報道機関の発表によると、今後30年以内で、70%の確率で「南海トラフ地震」が発生されるとの情報がありました。

震度7の地震と言いますと、阪神淡路地震が、7.3度、能登半島地震が7.6です。

70%の確率で地震が起こると言われても、どの程度かが判りづらい。

例えば、降雨確率70%となれば、出かける場合は傘をもって外出するように、地震に対しても、備えをして頂きたい。

我孫子市に影響がある地震は、震度6強程度と言われている茨城県南部地震です。この地震が起こった場合、我孫子市への影響があると言われている。

緊急地震速報とは、最初の揺れがP波、その揺れの後の揺れがS波の観測の事を言う。緊急地震速報が発し場合は、地震に備えて頂きたい。

我孫子市の想定地震強度6と言われている。立って歩く事が出来ない程度の地震です。市民の方からは、我孫子市の震度は、印西市や柏市より1度低いと言われます。我孫子市の震度計は、市役所の敷地内に千葉県が設置しており、千葉県を通じて気象庁へと報告されている。

では、「地震からどうやって身を守るか」と言うお話をして行きます。

地震の発生を防ぐ事はできません。大切な事は、「減災」と言う考え方です。

「減災」とは、少しでも被害を少なくすると言う取り組みの事です。ある程度の被害を想定した中での活動です。国・県・市も、この考え方で取り組んでいる。

災害発生時は「自助・共助・公助」のバランスが大切です。「7：2：1」の割合で対応して頂きたい。

皆様の記憶にあると思いますが、阪神・淡路大震災、1995年1月17日の早朝に発生した地震です。マグニチュード7.3、犠牲者6400名の大地震です。

この地震を契機に、日本の防災に関する考え方が変わっていきます。

犠牲者の7割の方が、木造住宅に住んでいる方でした。また、公助についても、機能しなかったと言う事です。

この地震で、消防などに助けだされた人よりも、近所の人に倒壊した住宅から助け出された方の方が多くいたと言う事実です。

過去の大規模地震発生した場合は、多くの事例からは、火災が発生します。その場合は、物資が届かない事が多くありました。ガソリンがない、水・食料・電池などが無い。

避難所にいる女性からは、トイレの数が少ないとの話しも出ていました。

この様な災害から経験した事は、公助が行き届かないと言う事が実感としてありました。

災害時には、「自助：7、共助：2、公助：1」が重要となっています。

東日本大震災においての、我孫子市の被害は「布佐地区」が、大きく被害があったが、皆様の天王台地区では、さほどの被害はなっか様です。

しかし、日ごろから災害に備える事は重要です。災害が発生した時に、皆さんが一番に行動するのが、家族の安否確認です。災害用伝言ダイヤル「171」は、災害によって電話が通じなくなったときの為に、NTT災害用伝言ダイヤルを是非覚えて頂きたい。

災害発生した場合には、重要な事は「自分の命は自分で守る」と言うことです。

自助・共助と言うことです。自助とは、日ごろから準備をしておく事です。重要な事は

1. 家具の転倒を防ぐ事、寝室の安全性の確保です。倒れそうな物を置かない。
2. 避難場所の確認と、避難場所までの道順、家族との連絡方法を確認して頂きたい。
3. 「阪神・淡路大震災で役立ったグッズ・ベスト20を紹介いたします。会議資料を参照願います。その他では、老眼鏡も備えて頂きたい。

地震が発生した時の重要な事は、揺れが収まった時、①火の始末②家から出る際は（屋根から瓦が落ちて来る）注意が必要です。③ご近所の安否確認と言う順です。

また、災害物資はすぐには来ません。ご自信で、2日から3日分の「非常持出品・備蓄品」を準備しておく事が重要です。

次に「共助」について話をさせて頂きます。

自分達の地域は、自分たちで守る事が、共助と言う事になります。平日では、男性の方は、働きに出ていて自宅には居ないと言う現実があります。女性・子ども達が居る事になります。

そう言う状況では、「向こう3軒両隣」と言う気持ちで、災害の準備を進めて下さい。

「避難誘導訓練」です。この2つは、是非、地域の方々が実施して頂きたい事項です。公助の話をさせていただきます。「県・市・消防署・自衛隊」の事を意味する事ですが、公助には限界があります。それは、スピードです。災害地域への人員の投下が、すぐには出来ません。矢張り、地域の方々の力が必要となります。市役所も直ぐに「災害対策本部」を立ち上げます。震度5弱以上の地震が発生した場合は、立ち上げます。

また、備蓄食料については、11万食を備蓄しています。これは、震災後3日間分の食料と想定しています。

風水害時の避難とハザードマップについて、話をさせていただきます。「あびこハザードマップ」は、各自治会を通じて全世帯に配布しております。それぞれの個別箇所（個人宅）の状況については、各自でのご確認をお願い致します。

安全な避難行動とは、避難所に避難する事だけでなく、住民自らが命を守る選択の中で判断し、行動をとる事すべてが避難行動です。

天候や時間帯、自宅の状況などから判断し、最も安全だと思われる方法で、出来るだけ早期に避難行動を行って下さい。

避難情報の種類としては、①高齢者等避難（警戒レベル3）②避難指示（警戒レベル4）③緊急安全確保（警戒レベル5）命が危険な状況です。

災害種別ごとの開設する避難所がありますので、ハザードマップで確認して下さい。地震・台風などの自主避難所・土砂災害・利根川の洪水・手賀川、手賀沼の洪水。

【講演後質疑】

天王台ヒルズガーデンニア自治会長

ハザードマップについてお尋ねします。

JRの車両基地は盛り土になっており、雨が降れば浸透水となり5mの浸水となる様にハザードマップにはなっています。JRと提携されているのか。

酒井係長

ハザードマップは特段JRとは協議等は行っていない。以前、利根川の水位が上がり決壊する状況があった。その場合はJRと国道事務所と連携をとりながら、JRの運休するとかする事例はあると考える。

天王台ヒルズガーデンニア自治会長

洪水による氾濫とか土砂災害に関しては、繁栄されていない事ですか。

住んでいるマンションの敷地が陥没し、その原因を調べると、雨水による事が原因と推測される。JR基地敷地の降水が、浸透水となりマンション敷地の土砂を削り、陥没しました。市への修繕に係る助成金の申請をしたが、前例がなく助成金の対象にならないとの回答でした。

その様な事を踏まえて、ハザードマップを作成して頂きたい。

(4) 自治会合同防災体験訓練と講演会のご案内について

東我孫子区自治会防災会副会長・・・

10月18日（土）・19日（日）開催致します「自治会合同防災体験訓練と講演」のご案内をさせていただきます。

講演会では、今回「秦 好子」（はた よしこ）先生を招いて講演をお願い致しました。講演では、「女性の視点で備える避難対策」をテーマに講演をさせていただきます。

秦先生の経歴は、横浜市の女性防災委員の1期生で「横浜市防災局の防災雄課長」を歴任し、現在は、防災士研修センター講師及び自治体主催防災士研修の講師として活躍しております。この機会に是非、自治会の皆様にお越し頂きます様お願い致します。

(5) 久寺家地区6自治会協議会設立の経緯と活動内容について

久寺家事務局より説明

1. 久寺家地区6自治会協議会の経緯について

久寺家地区特有の地形があり、高台から低地が存在する。久寺家地区地域会議で素朴な危機感があった。

- ① 2019年には、熊本地震・台風15号・20号の大規模災害の発生
- ② 常総での水害大被害、久寺家地区低地での利根川氾濫のリスク
- ③ 久寺家地区での豪雨による内水氾濫被害を経験
- ④ ハザードマップでは、久寺家地区が広域地域が浸水被害を被る

地域会議事務局の3人が、地域防災活動の活性化の必要性を痛感し、防災共助研究会を立ち上げる事を決める。

布佐平和台防災会長・市民安全課・流山市美田自治会へ出向きヒアリングを実施。

久寺家地区6自治会へのヒアリングの結果、2自治会は、防災訓練未実施、4自治会防災訓練の内容は、役員主体の訓練であった。

ヒアリングの結果を踏まえて、6自治会が連携して防災活動を実施する事で防災意識の向上になると考えた。

2020年、防災共助研究会より「久寺家地区合同防災訓練計画」を立案、6自治会長の賛同をえて取り組むことになった。

二階堂高校のグラウンドを、場所として、市民安全課、つくし野消防分署の協力をえて実施する事になった。

6自治会役員全員を対象とする防災研修会の開催しており①新任役員への防災知識や防災共助意識拡充目的に研修実施、毎年研修する事で多くの住民に防災認識を浸透出来ると考えている。

各自治会が主体的に行う安否確認訓練や避難誘導訓練の実施内容について、標準化や安否確認訓練チェックシートの標準化を検討している。

全世帯に配布する防災だよりは、毎年3回発行している。

(6) グループ別意見交換（災害時の自助・共助・公助について）

Aグループ：ひまわり会自治会・天王台四丁目自治会・天王台西自治会・早稲田地区自治会

Bグループ：あびこ天王台ハイツ自治会・藤和天王台ハイタウン自治会

ヒルズ我孫子ガーデニア自治会

Cグループ：東高野山自治会・東我孫子区自治会・大久保町会・大久保台自治会
小暮町内会

Dグループ：笹山町会・下ヶ戸自治会・我孫子天王台住宅自治会・岡発戸自治会

※各グループからの「自助・共助・公助」の意見を、項目別に下記のとおり纏めて記載させて頂きました。

安否確認（メールアプリを活用）、カセットコンロ、情報収集（LINE・SNS・ラジオ）フェイクニュースに要注意、電源確保、EV車で電源確保
ポータブル充電器、備蓄品3日間分、貴重品（スマホ）、
備蓄関係の知識を共有、安否確認、情報収集、シェイクアウト訓練
（地震の一斉訓練：じっとして動かない）、落下防止、寝室にスリッパを置く
落下防止対策、身を守る訓練

自治会名簿を苗字だけにしている、ハザードマップを全世帯に配布
ハザードマップを配布しているが活用が出来ていない、ハザードマップ
は配布のみとなっている、会費徴収時に状況把握に務めている（災害
弱者の確認）、市の防災訓練に参加している、防災訓練時に備蓄品の案内、
シェイクアウト訓練、年2回の草刈り時に班長から情報収集（排水など）
年に1回炊き出し訓練を実施、防災訓練・倉庫の点検・AEDと消化訓練
災害弱者の対応強化、手助けできる人と手助けが欲しいとのマッチング

共助：高齢者が多く訓練が出来ない、避難訓練はしていない、防災委員なし
保存食は期限切れ前に全員に配布、倉庫の借り賃は無料、備蓄なし
防災訓練なし、公園内に倉庫を建てる、備蓄倉庫なし
両となりの安否確認、自助の支援情報、日々の挨拶・声かけ、近助
近所の助け合い、となり近所を知っておく事、日ごろの付き合い
トイレの準備、自助の支援・教育、地域住民への防災意識向上、
協力井戸、発電機、近所付き合い、メール活用、SNS、連絡網の整備
共有井戸、ペット居場所

公助：助成金、防災用品の助成金、防災の助成金（50万円）

※まとめ

グループ討議では、「自助・共助」のご意見が多数を占める状況となっています。
ある調査で災害時には自助：共助・公助の割合が「7：2：1」になると報告され
ているように「自助・共助」の重要性は高いと認識している結果と思います。
防災は、個人・家庭（自助）、地域（共助）、市・国（公助）で行う総合的な取り
組みです。

日常からの備え、情報収集、訓練、災害発生時の冷静な行動が必要です。

以上